

## 1 学校教育目標

- ・自ら学ぶ人
- ・心のひろい人
- ・たくましく生きる人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力と健やかな心と体を着実にほぐむ学校</li> <li>・保護者、地域から信頼され、愛される学校</li> <li>・学校と家庭、地域が一体となり、チームとして教育活動を推し進める学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を見つめ、自ら主体的に学ぶ生徒&lt;四中ACADEMICS&gt;</li> <li>・礼儀正しく思いやりがあり、社会に貢献できる品位ある生徒&lt;四中HOSPITALITY&gt;</li> <li>・夢や目標の実現に向けて、粘り強く自ら主体的に取り組む生徒&lt;四中SPIRIT&gt;</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業や教育環境の充実を目指し、工夫・改善を図る教師</li> <li>・厳しくも、温かく誠実で、生徒の気持ちにより添える教師。生徒の個性や可能性を引き出し伸ばす、面倒見の良い教師</li> <li>・家庭、地域との信頼関係を大切にし、連携、協力しながら、問題解決を図る教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

○授業に前向きに取り組む生徒が多く、全体的に落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が実施されている。

○明るく素直で、学習意欲があり、自己を高めるための努力をする生徒が多い。

○昨年度は、感染症防止のための行動制限が少しずつ緩和されたこともあり、運動会も保護者の方の参観に制限は設けたものの、ほぼ平常時のプログラムに戻して実施することができた。また、1、2年生の魚沼自然教室についても、地元の人たちや中学生との交流を図るなど、新たなプログラムを模索しながら、成功裡に終えることができた。一方、職場体験学習や合唱コンクール等については、総合的に判断し、中止とした。今年度は、昨年度以上に行動制限が緩和されると考えられるので、感染症防止を継続しながらも、平常の活動に戻していきたい。また、学校行事、部活動、当番活動、係活動、委員会活動等に、より主体的に取り組ませ。生徒の主体性や自己肯定感を高めていきたい。

<昨年度の成果と課題>

○学力の定着・向上を図るために、学力調査等の結果・分析に基づき、授業改善及び授業外の学習の取組の一層の充実を図る。

○学習指導要領を踏まえ、アクティブラーニングの視点（主体的、対話的で深い学び）から、足立スタンダードに基づいた授業改善を推進するとともに、指導と評価の一体化の一層の充実を図る。

○ねらいに応じて、これまでのICT機器の利活用に加え、一人一台タブレットやAIドリル等の効果的な活用を図る。

○不登校問題の解決に向けて、養護教諭、SC、SSW、教育相談コーディネータ、登校サポーター、関係機関、関係小学校等との連携の一層の充実を図る。また、巡回指導教員、専門員、特別支援教育コーディネータを中心に、組織的に連携を図り、特別支援教育の充実を図る。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生きる力をはぐくむ教育活動の充実	○	○	○	○	○
3	社会に開かれた教育課程の推進	○	○	○	○	○
4	夜間学級の教育活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
確かな学力の定着と知的好奇心や自己肯定感をはぐくむ指導の充実		令和5年度区調査 目標通過率 75% 年度末到達度テスト 目標正答率 70%	令和5年度区調査（3教科） 平均通過率⇒82.7% 年度末到達度テスト 平均正答率⇒70.4%	今年度の3教科全体の平均通過率は、昨年度に比べ、約3.4ポイント上昇し、約82.7%に、平均正答率も、約0.6ポイント上昇し、約73.3%となった。				◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	学習ウィーク	全生徒 英語 数学	5月～ 2月	月に1週（土曜授業日のある週）を学習ウィークとし毎朝10分間の復習テストを行う。土曜授業日の1コマを全校英語又は数学とし、1週間の復習を兼ねた教え合い学習を行い、その後確認テストを行う。不合格者は次の週の放課後補習を受け再テストに臨み、合格するまで取組む。	確認テスト 再テスト	全員合格	年間を通して、計画どおりに実施し、確認テストが不合格だった生徒も、おおむね合格することができた。	既習事項の確認や、基礎学力の定着のために今後も継続していく。次年度については、区の方針に基づき、土曜日授業の回数が減るため、確認テストは、平日の6校時後に行う。	◎

継続	自主的な家庭学習への取り組みを促す指導	全生徒 ・全教科	通年	授業の受け方や家庭学習の仕方を示した冊子「各教科の学習法」を配布し、自主的に家庭学習に取り組む指導を継続する。	連絡帳（毎日提出）で確認する。	冊子の4月配布	各教科の学習法を予定通り配布し、全生徒に意識付けを図ることができた。	宿題がなくとも自主的に家で学習する生徒の割合は区平均よりも9.4%高い。	◎
継続	放課後学習教室	希望生徒 ・全教科	・定期考査前等	個別に支援し、理解が不十分な内容の解消を図る。	開講教科	5教科実施	5教科実施できた。	実技教科も質問があれば対応していた。	◎
継続	サマースクールの実施	全学年・5教科	夏季休業日	当該年度の前半期の内容について学習のつまづきを図る。	日数 開設教科	7日間実施 5教科実施	予定どおり実施することができた。	1年生の課題のある生徒に、7日間数学特訓教室を実施。	◎
継続	論理的な思考力の向上	全生徒 ・全教科	通年	「論理的思考を進めるために必要な発言ルール」「論理的思考を進めるための思考スキル」を掲示	掲示の有無 発表活動や作文等での活用	4月の掲示 活用率80%以上	発表の際に、参考として、おおむね活用されていた。	各教室にルールを掲示し、意識化を図った。	○
継続	各種検定	希望生徒 ・3教科	年間	年3回、校内において、英検、数検、漢検を実施する。	回数	年3回実施	予定どおり実施できた。	図書室に、対策問題集を整備した。	◎
継続	教員の指導力の向上	全教員	年間	授業の始めに、「めあて」や「学習課題」を示し、学習活動の見通しを示す。	区調査	肯定的評価 80%以上	年度末のアンケートの肯定的評価は、80.9%であった。	区の平均値は超えたが、より徹底を図る必要がある。	○
新規			年間	生徒の興味・関心や自己肯定感を高める指導の工夫を行う。	生徒アンケート	肯定的評価 4月時より超える。	勉強は好きと答えた肯定的評価が、4月時より少し増えた。	興味関心を高める導入や展開の一層の工夫が必要である。	○
継続			年間	学習のねらいに応じて、ICT機器を効果的に活用する。	面接、授業観察	全教員	昨年度に比べ、全教科を通して活用されていた。	より効果的な活用法を学ぶ必要がある。	○
継続			年間	小中連携研修を年間7回行う	回数	年7回	年7回実施できた。	主題にかかる調査で80%以上の生徒の肯定的評価を得た。	◎
新規			年間	授業や朝学習、補充教室、長期休業日等でAIドリルを効果的に活用する	面接、授業観察	5教科教員	今年度より、朝学習で、読書に加え、AIドリルを行った。	次年度はAIドリルを行う朝学習の時間を実質5分増やす。	○

重点的な取組事項－２		生きる力をはぐくむ教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
キャリア教育の求める汎用的能力の向上と不登校の組織的な対応の充実を図る。		学校生活アンケートの基本的な生活の項目の肯定的な回答を80%以上にする	学校生活アンケートの基本的な生活の質問項目に対する肯定的な回答が90%を超えている。	次年度も自ら気持ちのよい挨拶ができる生徒の育成に重点を置き、継続的に指導を行う。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
課題対応能力・自己理解・自己管理能力の育成	学校生活アンケートの学校生活に主体的に参加している項目の肯定的回答が80%以上	日々の委員会活動や学級活動、学校・学年行事、部活動等に生徒が主体的に取り組む指導を継続的に行う。	学校行事や生徒会、委員会、部活動等に主体的に参加しているかとの質問に肯定的な回答が90%を超えた。	運動会、学芸発表会、合唱コンクール等の行事で、実行委員会が主体的に運営していた。	◎
人間関係形成・社会形成能力の育成	学校生活アンケートのコミュニケーションスキルやチームワークに関する項目で、肯定的な回答が80%以上	各教科、総合的な学習の時間等におけるグループワークの指導や挨拶の指導に継続的に取り組む。	コミュニケーションスキルやチームワークに関する質問項目で、肯定的な回答が90%を超えた。	自ら声に出して気持ちのよい挨拶ができるよう、継続して様々な場面で指導し学校全体の挨拶の意識を高める。	○
キャリアプランニング能力の育成	学校生活アンケートの学ぶことや働くことの意義に関する項目で、肯定的な回答が80%以上	自己理解を基本に3年間を見通した進路指導を行うとともに、学ぶ意味や目的を理解させ、自ら主体的に学ぶ姿勢を養う。	学ぶことや働くことの意義に関する質問項目で、肯定的な回答が80%以上であった。	4年ぶりに、第2学年において職場体験を実施することができた。	◎
不登校の組織的な対応の充実	月1回の「心の声」(生活アンケート)やいじめアンケート(区年3回)及びQU(2回)の実施。 サポートルームの定期的な開設と校内委員会の充実	・学校独自の生活アンケートやいじめアンケート、QU検査等とともに、生徒の実態を教職員で把握共有し、組織的な指導に生かす。 ・月～金にサポートルームを定期的に開設するとともに、校内委員会を週1回、外部機関との連携を取りながら実施する。	・月1回の「心の声」(学校生活アンケートに)を計画どおり行い、いじめの未然防止、特別な支援が必要な生徒の早期発見等に活用した。 ・登校サポーターや生活指導員を中心に、毎日開設することができた。 ・特別支援委員会を週1回開催し、一人一人の状況と個に応じた支援の在り方について協議した。	落ち着いた学校生活を送るための基本的な指導はできている。特別支援教室の運営は組織的に行われているが、個別の課題を解決するために、外部機関との連携を重視するとともに、保護者の理解と協力を得ながら、継続的な支援を図る。	○

重点的な取組事項－3		社会に開かれた教育課程の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域・外部機関との連携を図り社会に開かれた教育課程を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年6回以上開催</li> <li>・開かれた学校づくり協議会を年4回以上開催する。</li> </ul>	今年度も、予定どおり、実施することができた。	教育方針の周知や教育活動の様子等について理解を深めることができた。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校評価の工夫・改善による充実した教育活動の展開	重点的な取組項目を概ね達成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土曜事業部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のあいさつ運動や道德地区公開講座の参観などを行い、生徒の状況や教育課題を共有する。</li> </ul> </li> <li>○小中連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生に学校生活に関するアンケートを取り、結果を学校と共有し、中1ギャップの解消に役立てる。</li> </ul> </li> <li>○家庭教育部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象に講演会を開催し、教育課題を共有し、地域や家庭の教育に生かす。</li> </ul> </li> <li>○評価部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と意見交換会を行い、課題の解決に向けて協力を得る。</li> </ul> </li> <li>○広報部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙を2回作成する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動は、土曜授業日に実施し、生徒の様子や学校の現状を理解してもらうことができた。</li> <li>・中1アンケートは予定どおり行われ、生徒の気持の変化を理解する資料として集約することができた。</li> <li>・家庭教育部会や評価部会のメンバーと教員との意見交換は、開かれた学校づくり協議会の場で行われ、教育活動の在り方を考える上で貴重な機会となった。</li> </ul>	学校運営協議会や開かれた学校づくり協議会は、学校のパートナーとしての機能を十分に果たしており、今後も学校の教育活動の良き理解者としての機能を果たしていくことを期待する。特に、今年度は、運動部の部活動の指導者が見つからず、学校運営協議会で情報共有したところ、迅速に紹介していただき、円滑に実施することができた。	◎
地域の力を活用した生徒の健全育成	地域行事へ生徒をのべ80人派遣し、地域関係者の指導を得る機会にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に生徒を派遣し、地域関係者との交流を通じて地域に貢献する態度と社会人としてのマナーを養い、自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のおやじの会や地少協のこども祭りや地域の伝統文化体験、吹奏楽部の子ども会での演奏等、延べ約80名の生徒が参加した。</li> </ul>	11月には、生徒会主催で地域の清掃活動を行い、延べ約150人の生徒が参加した。	○
学校の教育方針・教育活動の発信と情報提供	学校説明会3回、学校だより10回の発行、HPの毎日の更新	学校での生徒の活躍や生活の様子を積極的に発信し、学校の教育活動への理解を深め、家庭での教育の一助とする。	学校説明会、学校だよりの発行に加えて、毎日ホームページを更新し、学校の様子を伝えた。	HPでは、生徒の学校生活の様子を写真でアップし、閲覧回数を増やすことができた。	◎

重点的な取組事項－４		夜間学級の教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の事情や学習の状況を踏まえた教育活動を充実させる。		生徒の実態に応じた学年や学級を提示し、環境への円滑な適応を図るとともに、個に応じた指導の工夫を図り、８０％以上の肯定的評価を得る。	年末に行われた相談期間での面談等で、８０％以上の生徒の肯定的評価を確認する。	一人一人の習熟度や生徒の状況等に配慮して学級編成を行った。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導の充実	生徒一人一人の事情や学力の状況を踏まえた個別指導を行い、相談期間での面談等で８０％以上の肯定的評価を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の事情や学習の状況を踏まえた個別指導の充実を図る。</li> <li>・入学前面接を重視し(質問事項の改善、見学時の対応の変更等)生徒情報を入学後の適切な指導に役立てる。</li> </ul>	不登校経験者や高齢者など多様な生徒を受け入れ、個々の状況を踏まえた計画のもと、習熟度別学習やチームティーチングによる個別指導を行った結果、年末の相談期間での面談等で、８０％以上の生徒の肯定的評価を確認する。	特別な支援を要する生徒や様々な事情を抱えた生徒の入学希望者が増えている。今後は、特別支援教育についてより一層の理解を深めていく必要がある、	◎
夜間学級の理解を深める広報活動	区内中学校への広報活動の充実と区内中学校からの形式卒業者の適切な受け入れを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開や区内３４校への広報活動などを通じて、夜間学級への理解を深め、形式入学者の受け入れを拡充する。</li> <li>・公共な場所に入学案内のチラシを置いてもらうとともにホームページで広報を行う。</li> </ul>	９月以降、中学校長会や中学副校長会等で、夜間学級の教育活動を紹介するとともに、夜間学級の全教員で、区内公立中学校３４校の訪問を行い、理解を深める活動を行なった	区内中学校からの不登校経験者の受け入れは一定数できているが、夜間学級の教育活動に適性をもった生徒の発掘は、今後も継続していく。	◎
特別活動の充実	学校行事や夜間学級連合行事へ８０％以上の生徒が参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導を充実させ意欲的に行事に参加する姿勢を養う</li> <li>・所属意識や自己肯定感を高めていくために、事後指導での発表活動等を行う。</li> </ul>	都内にある夜間学級８校で行う、連合体育大会、生徒会交流会、連合作品展を実施できた。学校行事は、ほぼ全員が予定どおり参加し、生徒同士の交流や集団に貢献する態度を養うことができた。	自然教室や遠足を実施し、不登校経験者の中には生まれて初めての宿泊行事となった生徒もおり、充実した経験になった。	◎
G I G Aスクール構想の推進	全教員が生徒一人一台タブレットを効果的に活用した授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台タブレットの活用事例についての研修を行うとともに、授業のねらいに応じた活用を図る。</li> </ul>	今年度より、G I G Aスクール構想の推進を図るチームを設け、計画的に一人一台タブレットの活用の研修を実施し授業に生かした。	教員により、活用の頻度が異なるため、次年度も継続的な研修を実施し活用度を高める。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ＜確かな学力の定着と知的好奇心や自己肯定感をはぐくむ指導の充実＞

○3教科全体の平均通過率は、昨年度に比べ、約3.4ポイント上昇し82.7%に、平均正答率も、約0.6ポイント上昇し、約73.3%となった。問題教科領域別正答率においては、区平均正答率と比べ、数学の「数と式」が3年生で、10.1ポイント、2年生で12.7ポイント上回っており、全体的には、数学ウィークの取組等が反映されたと考える。また、国語でも、「書くこと」が3年生で8.5ポイント、2年生で9.5ポイント上回っており、総合的な言語活動の積み重ねが結果につながっていると考える。

○1年生は、平均正答率で、国語は13.0ポイント、数学は20.8ポイント、英語は14.1ポイント、目標値を上回っていた。小学校での学習の成果が表れていると考えるので、継続して学習に取り組ませる。

○2年生は、平均正答率で、国語は16.7ポイント、数学は22.7ポイント、英語は15.9ポイント、目標値を上回っていた。特に、英語では、「書くこと」について、3年生で8.5ポイント、2年生で13.8ポイント、目標値を上回っており、統合的な言語活動の成果が表れている。

○3年生は、平均正答率で、国語は8.2ポイント、数学は15.0ポイント、英語は13.6ポイント、目標値を上回っていた。英語の「読むこと」については、3年生で10.5ポイント、2年生で19.5ポイント、目標値を上回っているが、数学と同様に、A層とD層が学力の差が、広がってきているのが課題である。授業における個に応じた支援に加え、基礎学力の定着のため、朝学習、学習ウィーク、サマースクール、放課後補充などの取組を通して、つまずきの解消を図る必要がある。

○学習意識調査で、「宿題がない時でも家で勉強する」と回答した生徒は、66.4%で、区平均57.0%を9.4ポイント超えてはいるものの、前年度自校で「宿題がない時でも家で勉強する」と回答した生徒は、71.1%で、4.7ポイント下回る結果となった。家庭学習の重要性について、継続的に生徒に理解を図る必要がある。

○「勉強が好きだ」と回答した生徒は、40.3%と区平均34.1%を超えてはいるものの、生徒数の半分に満たないため、分かりやすい授業や生徒の知的好奇心や興味・関心を高める授業、自己肯定感を高める授業、キャリア教育の充実など、様々な工夫や個に応じた支援が必要である。

#### ＜生きる力をはぐくむ教育活動の充実＞

○感染症が5類扱いとなったことに伴い、4年ぶりに2学年の職場体験や学校全体での合唱コンクールを実施することができ、キャリア教育の求める汎用的能力をはぐくむ場を広げることができた。今後も教員の指導力の向上を図るとともに、生徒の話を聴く、気持ちを受け止めるなど、生徒の気持ちに寄り添う姿勢を大切にしたり、自己決定の場や生徒が活躍できる場面を設定し、個性を生かしたり、努力を認めたりしながら、自己肯定感を高めていく。

○週1回の校内委員会を核とし、教職員や関係機関がチームとして取組み、特別支援教室の効果的な実施や不登校率の減少に向けた情報共有を行うとともに、サポートルームでの個別の対応を行った。今後も専門家の知見を生かし、支援充実を目指す。

#### ＜社会に開かれた教育課程の推進＞

○今年度より、地域での清掃活動や様々なボランティア活動の場が増え、自ら参加する生徒が数多く見られたが、ボランティア活動に関する学校生活アンケートの結果では、肯定的な回答が、60%以下にとどまったため、PRを積極的に行うとともに、活動の場を広げていきたい。

#### ＜夜間学級の教育活動の充実＞

○昨年度に比べ、GIGAスクール構想に基づき、担当教員の明確化を図った結果、大型提示装置に加え、一人一台タブレットの活用が広がった。今後も、研修等を通して、情報の共有化や指導力の向上に努めるとともに、タブレットの管理の徹底を継続していく。

### (2) 保護者や地域の方へのメッセージ

○おかげさまで、令和5年度の教育活動も予定どおり無事進めることができた。保護者の皆様、地域の皆様に深く感謝申し上げたい。学校の教育活動はコロナ前の状況に戻ってはきたが、感染症やインフルエンザは、ゼロにはなっていないため、今後も継続して、生徒の安全や健康に十分配慮していく。